

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会
平成 13(2001)年度第5回相互協力委員会議事録

日時:2001年12月11日(火)午後1時～午後5時

場所:中京大学 豊田キャンパス図書館 会議室

出席者:長坂功(愛知大学)、加藤直美(愛知工業大学)、中上恵子(愛知みずほ大学)、酒井麻里(金城学院大学)、
小川光男(中京大学)、疋田幸世(中部学院大学)、蓑島智子(中部大学)、加藤富美(南山大学)、石川
宗臣(日本福祉大学)、浜野五鈴(鈴鹿医療科学大学)

記録:浜野五鈴(鈴鹿医療科学大学)

計 10 名

【協議事項】

1. 2001年度相互協力情報交換会の総括

館灯に載せる記録の確認と、当日アンケートの確認がなされた。

①全体会記録について

- ・個人名は司会者等に変える。
- ・質疑応答での、紀伊國屋書店が回答した部分に関しては修正したものがあるので後日メールで配布する。
- ・CANに関する脚注をつけることとした。
- ・書店が行っていない回答は『相互協力委員会』と入れた方が良いということになった。基本的に『相互協力委員会』とし、CANの部分については足立氏に確認する事となった。また、書店以外の回答全部を相互協力委員会からとする場合は、『CANに参加していただくことも一つの方法です。』という柔らかい表現に変えることとなった。
- ・一部校正して、後日メールにて配布、確認することとなった。

②分科会記録について

- ・B分科会の記録については、後日メールにて配布するという事だった。
- ・各分科会の記録については、担当委員名を記載する等、様式を統一することになった。
- ・その他、誤字脱字等いくつか指摘があったが、細かい部分に関しては委員長が修正し、館灯及びHPの記録となる。

③当日アンケートについて

- ・事前アンケートを、情報交換会前に配布して欲しいとの声もあったが、アンケートの性質によるもので、今回は特に事前配布する必要はなかったのではという意見だった。
- ・時間が足りなかったと言う感想が多く、午後からの場合は分科会中心でも良かったかもという反省点が出された。
- ・相互協力委員会に対する要望に、図書館員の専門性に関しての実態調査を行って欲しいというものがあったが、委員会で検討してみても良いが、問題が大きすぎるため、調査を行うとしたら協議会全体で取り組む方が良いのではということになった。
- ・業者のプレゼンテーションからいきなり入ったため、分かりづらかったのでは？という意見があった。委員から先にコンソーシアム等の説明をするか、あるいは分科会を最初に持ってくるほうが、質問もでやすかったのでは等の反省点が出されたので、次回からの参考にしていくこととした。

- ・当日アンケートについては協議会 HP に載せないこととなった。
- ・「基本的なことを知りたい」という意見について検討を行った。参加者に経験やレベルのばらつきが大きくなっている現状があり、他部署から異動して来た人や研修のない新人等は、図書館員にとっては常識的な承事項となっていることが分からないケースがある。また、図書館内に聞く人がいないという人のためにも、テーマの中でやる事をはっきりさせて、基本的なことを聞ける分科会があっても良かったのではという意見が出された。

④館灯とHP への掲載について

- ・協議会 HP への掲載予定原稿は次の通り。情報交換会事前アンケート、記録(分科会・全体会)。
- ・館灯には簡単な記録を載せ、詳細は協議会 HP で見てもらうということでURLを原稿に記載することになった。

2. 委員会ホームページの充実について

- ・今回の情報交換会に関しては、全体会・分科会の記録と、事前アンケートを掲載することになった。
- ・委員長より、PR不足なのか、協議会HPを見ている人が少ないように感じる。地区の図書館員が良く見るページにするためにはどうすれば良いかまたアイデアがあれば教えて頂きたいとの依頼があった。

3. OPAC 横断検索／相互貸借物流に関する調査について

- ・12月の幹事会で報告する予定であったが、もう少し調査をして材料を集めてからにしたいということだった。
- ・理事校から、地区に関連した OPAC 横断検索を扱って欲しいとの要請があり、調査を始めたが、最終目標としては、物流が伴わないと意味がないため、どの程度各館が協力できるかをしっかり調査し、他地区の事例や実情をもう少し掘り下げてから報告することとなった。
- ・もう少し WG でつめ、常任幹事会で、委員長が委員会としての関わり方を確認し、その情報をメールで委員に知らせることとなった。

4. 協議会メーリングリスト合同提案について

- ・ML の種類の(1)東海地区協議会 ML は、常任幹事会 ML だと思って良いとの説明があった。
- ・12月14日の常任幹事会で承認がおりればすぐに運用したい。承認が得られない場合は、理事校が入った形で等の代替案を考える。
- ・メンテナンスは情報化委員会が行うかどうか、およびメンバーが委員校になっているが委員個人のことかどうか、この2点を委員長が常任幹事会の前に情報化委員長と確認しておくこととなった。

5. データベース共同トライアルについて

- ・委員長より、丸善・紀伊國屋書店・ナウカから、データベース共同トライアルについての提案文書がきているとの報告があり、資料が提示された。
- ・業者としてはそれぞれの DB を見比べて、オンライン DB の利用にはずみをつけたいという意図があるが、取りまとめはどこがするか、すぐにも本利用を導入したい大学にとってはどうなのか、地区としてやるなら、コンソーシアム価格の設定を期待したい等の意見が出され、委員会だけで進められる事ではないので、3社の資料をそろえた上で、共同トライアルの提案を常任幹事会で投げかけ、常任幹事会・理事校にまずは判断して頂くこととなった。
- ・相互協力委員会が扱う領域が不明確で委員として関わり方が難しくなっている現状があるという意見があり、委

員の間で意見交換をした。

- ・常任幹事会等で、両委員会・研究会のあり方を協議してもらって、役割分担を少しずつ見直していても良いのではという意見もあり、これについても意見交換をした。

6. 2002年度実務担当者研修会について

- ・WG を立ち上げ、時期・テーマ・講演内容・プログラム形式を含めて考えることとなった。
- ・合宿形式が良いかどうかということについて、泊まりによって+αのものがあるので、従来どおり宿泊研修としたいが、私立大学図書館協会の総大会の直前である事や、宿泊での出張が厳しいという各館の事情があり、難しいのではという意見が出された。これに関しては、今回に限っては日程をずらしてもよいのではという意見もあった。
- ・情報交換会とあきらかに違いがわかる、内容を充実させた『研修会』といったものにしたい。
- ・宿泊・日帰りの二本立てで考えると、予算を立てるにしても煩雑になってくるので、どちらかはっきりさせておく必要がある。各委員にどちらが良いのか意見を聞いたところ、宿泊形式での開催の方が良いだろうという意見が多かった為、今回は従来どおり宿泊で行う事に決定した。
- ・参加費を今回から1万6千円に値上げする。その旨を委員長より、常任幹事会で提案してみる事となった。
- ・日程としては、8月1・2日、8・9日、22・23日あたりで検討する。
- ・宿泊所として予定されている南山大学の施設を、実際に一度見た上で検討することとなった。
- ・宿泊所と研修会場は別にする事として、宿泊所近辺の大学を開催会場候補地として考える事となった。
- ・WG メンバーは、委員長、加藤富さん、中上さん、石川さん(返事保留)、浜野(メールでのやりとり中心)となった。年内に一度ワーキンググループの打合わせを行うこととした。

7. その他

- ・協議会 HP のメンテナンス体制について、9月の合同委員会以降、どうなったのか質問があったが、3月までは現状の体制のままであるということを説明した。
- ・愛知工業大学の加藤直美さんより、公開中であるレファレンスコンソーシアム実証実験のレファレンス事例集に、各大学の事例蓄積をお願いしますとの協力依頼があった。
- ・次回委員会は、会場は愛知大学豊橋図書館で、時期は2月末を予定するが、合同委員会になるため、情報化委員会と日程調整の上後日連絡することとなった。

以上